



尾崎

おざき・ちえこ

智恵子さん



全国で普及が進む「こども食堂」。

国が推奨する子どもの貧困対策の一端という印象がある一方で、地域の活性化に一石を投じる取り組みとして注目が寄せられています。

今年3月1日に、市内第1号として大和の一角で「開店」となった「こども食堂十彩(といろ)」。責任者の尾崎さんにお話を聞きました。

●こども食堂を始めたきっかけは？

「本業(児童・ティサービス)の仲間一人から提案がありました。子どものころ、親が共働きで、さびしい食事をしたという思いから生まれたもので、現在、『シエフ』を含む友人らでの7人体制。毎週土曜日の17時から19時まで、小中学生の親子の皆さんに場所と食事を提供しています。」

●安価での食事提供はご苦労も多いことと思いませんか？

「寄付を募って始めた取り組みです

が、新聞報道のおかげで、農家の方や、実家から送られて食べきれないという、無償で食材を提供いただく方が訪れるようになりました。有り難いことです。「人のあたたかさ」に世の中への希望を実感しています。

お食事代として、子どもからは100円を頂戴していますが、こだわりは、100円でも、あたたかいご飯が食べられること、百円玉一枚の重たさ《お金の価値・大切さ》を、今のこどもたちに伝えたいのです。」

●こどもにも好まれるメニューは？

「棚に食べ物を並べて自由に選べる『ジュップエスタイル』としていますが、カレーライス、ちくわの揚げ物などが好まれています。特にから揚げは絶品ですよ。もやしのナムルなど子どもたちの野菜の摂取にも気を配っています。一番苦労しているのはシエフではないでしょうか(笑)。」



こども食堂は、「夢がつまった場所」です。

●尾崎さんが得たものと抱負は？

「『食堂』の隣部屋は《駄菓子屋》になっています。食事の後は、母親子どものグループに分かれて交流が始まります。それぞれのコミュニティが生まれる明るい場所を目指しています。私自身、お母さん方の輪に入り、今の子育て世代が抱える悩みや、多くの情報を吸収しています。

子どもの夢、大人の夢、私自身の夢、こども食堂は《夢がつまった場所》です。子どもと母親の両方を支えることができることも食堂でありたいですね。今はまだ、小さな小さなコミュニティですが、いずれ



▲10人程度の親子が集う《食堂》。利用者は、多くなく少なくないが良い。◀隣部屋には《駄菓子屋コーナー》を設置、すべてスタッフの手づくり。

プロフィール

■尾崎智恵子(おざきちえこ)さん/こども食堂【十彩(といろ)】の責任者/仕事の都合で市内に単身赴任中。有志のボランティア活動により、千歳初のこども食堂を開設。/【所在】大和1丁目7-5【開設日・時間】毎週土曜日、17時~19時(申込不要)

は町内会など、市内のいたるところに増えていくことを願っています。」
今月、市が主催する「こども食堂フォーラムinちとせ」で、事例発表者役を務める尾崎さん。《子育てのまち》として、「共助の取り組み」に期待が寄せられます。

こども食堂フォーラム in ちとせ

こども食堂のつくり方と運営方法
●講演 / NPO 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク・栗林 知絵子氏 (東京都)
●事例発表 ●ワークショップ

【とき】5月21日(日) 参加無料
13時~16時30分
【ところ】北ガス文化ホール 4階大会議室 (市民文化センター)

【申込方法】申込書(インターネットからダウンロード可)、FAX、Eメール、郵送、持参、電話で申し込み。
【申込期限】5月15日(月)
【申込先・詳細】千歳市こども家庭課こども家庭係(市役所1階⑥) ☎066-8686 千歳市東雲町2丁目34 / ☎(24)0328 / FAX(22)8851 / E-mail kodomokatei@city.chitose.lg.jp